

伝承・伝播・伝達

## てんでづたえに じげ岡見

～ふるさと岡見を 次から次へ～

浜田市立岡見公民館

### 1 岡見公民館の概要

岡見は浜田市が一番西の端に位置し、益田市に隣接している。日本海に面していて、人口約1,300人、世帯数約500戸、高齢化率35%以上。働く人の多くは、浜田市や益田市に行き、日中の高齢化率はさらに高い。岡見地区には岡見小学校があるが、中学校は10年前に統合されたため地元ではなく、三隅中学校にスクールバスで通う。そのため、中学生の姿を日中、見かけることはほとんどない。また、中国電力三隅発電所があり、その社宅や付近の分譲団地には若い世代も住んでいるが、地域との係わりは少ない。

当館の特色として、公民館の別館で放課後児童クラブが開設され、さらに、同じ建物内に保育所があることで、いつも子供の声が響き、職員、利用者とも心和むことも多く、幼児・児童対象の事業は比較的实施しやすい。しかし、公民館は岡見地区の中央部にあり、周辺部の交通手段のない高齢者などは公民館を訪れることが困難なことも多く、事業を行う上で今後の課題となる。

### 2 事業の概要

#### (1) はじめに

①実証事業名 伝承・伝播・伝達

てんでづたえに じげ岡見

～ふるさと岡見を 次から次へ～

②実証事業のテーマ

じげ（自分たちが暮らしている地域）の素晴らしいところ（伝統文化、芸能、人々の結びつきなど）を「伝承・伝播・伝達」によって、「てんでづたえ（順番に次々と伝える）」にして、「輝くじげ、住んで良かったと思えるじげ」を目指す。

③実証事業のねらい

少子化、過疎化、共働き家庭の増加など、生活環境の変化で、地域の行事に参加しない人、できない人、関心を持たない人が増加。その結果、伝統行事、風習などが消えつつある。加えて、婦人会、子供会などの衰退もあり、住民同士のつながりや連帯感が希薄になってきており、今後の地域の姿に不安を感じている。そこで、“てんでづたえ”をキーワードに「伝承・伝播・伝達」の方法で地域の元気をすることを考えた。「伝承」によって、「じげ」を愛し大切に思う人を増やし、「伝播」によって、「じげ」地域の

結びつきをさらに強くし、「伝達」によって、「じげ岡見」を多くの人や子供たちに伝えられるもの残す。

ことは、地域を元気にし、子供たちの未来へつなぐこととなっている。

## (2) 具体的な取組（内容、活動状況 等）

### ①伝承 「ひと、もの、こと」を次の世代に伝えよう

#### ア 岡見相撲甚句の復活

かつて祝い事などで行われていた相撲甚句。女性ばかりで演じる珍しい芸能であった。しかし、継承者の高齢化により、最近ではほとんど演じられなくなった。この相撲甚句を歌える人が一人しかいなくなったためその継承が危ぶまれた。そこで、今回この事業で取り組む事とし、6月より毎月1回、公民館主催の相撲甚句教室を開催した。現在15名が参加して甚句と踊りを練習中。3月、公民館まつりでの発表を目指している。昨年10月には三隅中学校のふるさと教育の取り組みに協力。生徒が文化祭で演じるために会員が相撲甚句の指導に当たった。また、化粧まわしなどの衣装を教室以外の人にも手伝ってもらい手作りをした。



相撲甚句教室の練習風景



中学生への指導風景

#### イ 親子釣り大会

地元には海がありながら、近頃は海で遊ぶ子供も少なくなった。もっと海を身近に感じ、大切に思う気持ちを育むため、親子釣り大会を実施し親子13組33名の参加があった。あいにくの天候で、途中傘をさしながらの大会になったが、釣りの指導を始め、安全確保など地元住民の協力を得て無事に実施できた。



釣りを楽しむ親子

### ②伝播 「感動」を多くの人に伝えよう

#### ア うちわまつり

8月、当公民館の夏祭りとして定着している「うちわ祭り」を開催。来場者も400人を超え大盛況に終わった。6月下旬から、地域や学校に、運営ボランティアや出店などを呼び掛けた。一般住民のほか、小中学生、小学校職員など多数の協力者があった。普段話をする事のない人同士が祭りを通じて親しくなり、祭りの作り手としての楽しさも感じてもらえたと思う。



準備を手伝う小学生たち



PTAの屋台



会場の様子

### イ じげウォーキング

11月、地域に残る「お地蔵さん」をまわるウォーキング大会を実施した。実施に当たり、古い文献や地域の方の話などを聞いて所在地を調査。災害などで無くなったものや、土地の荒廃で行けなくなった所などもあり、スタッフでコースを検討し、実際に歩いて決定した。当日は保育園児から高齢者まで56名が参加して、地域をゆっくり歩いてまわった。公民館に戻って、今回行けなかった場所をスライドで紹介。また、地元野菜を使った昼食を食べながら交流を深めた。地域福祉協議会や保健委員会、食生活改善委員会とも協力し行われた。今回すべての地区を回り切れなかったので、次年以降、残りを回りたい。



お地蔵さんを覗き込む参加者



参加者全員で記念撮影

- ③伝達 「じげ岡見」をかたちにして伝えよう  
ア ふるさと通信

公民館だよりをはじめとする地域の情報を岡見出身者に毎月届ける事業で、従来より行っているが、さらに広報して会員を募集中。

#### イ ビデオ上映会

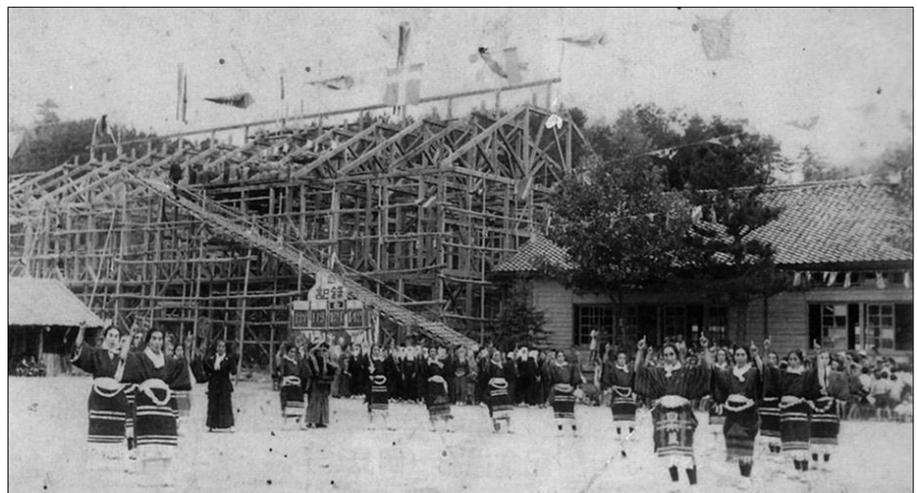
活動の様子をビデオに撮り、さまざまな場面で上映し、活動の様子を多くの住民に知ってもらおう。しかし、現在ビデオの編集が間に合わないので次年度以降に実施の予定。

### 3 事業の成果と課題

- (1) 消えかけていた相撲甚句を復活させることができた。地域の行事などに呼ばれたり、中学校のふるさと学習に協力したりして、相撲甚句を多くの人に知ってもらい、次に繋げる手掛かりとなった。また、参加者からは生徒たちとの交流ができて大変喜ばれた。また、中学生たちも地元の伝統芸能を体験できたことはいいことだったと思う。しかし、教室参加者の平均年齢は60代であるため、今後はその次の後継者作りが課題となる。
- (2) 「うちわ祭り」は地域に根付き、岡見の夏祭りとして定着してきたが、マンネリ化しないような工夫が必要になると考える。
- (3) じげウォーキングでは、普段何気なく通り過ぎている地域のいろいろな物を再発見できた事業であった。話をしながらゆっくり歩き参加者同士の交流も深まった。課題として、歩行中の参加者の安全確保に努める必要がある。
- (4) 地域と学校のつながりがより深くなったと感じる。今後も互いに協力していきたい。

### 4 今後の方向性

地域に古くからあった「田植え唄」や民話などを掘り起こしたり、「うちわ祭り」を継続して実施したりするなど、「伝承・伝播・伝達」という方法で、地域の「ひと・もの・こと」を次世代へ繋げるように努めたい。伝える側と受け継ぐ側が協力することによって生まれる、人と人とのつながりで「地域力」醸成を目指したい。



相撲甚句の様子  
(昭和20年代)